

平和

笠岡さん（左端）の被爆体験に聞き入る
「ヤングアメリカンズ」のメンバーたち



歌・ダンスの団体「ヤングアメリカンズ」広島訪問

被爆証言 43人の胸に響く

世界各國で歌とダンスのワクシショップを運営する米国非営利団体「ヤングアメリカンズ(YA)」のメンバー43人が、広島市内で公演した機会に平和記念公園(中区)などを訪ね被爆者の笠岡貞江さん(86)〔西区〕から証言を聞いた。原爆で両親を失った笠岡さんは、全身やけどで真っ黒に焦げた父の姿を基町高(中区)の生徒が描いた「原爆の絵」をスクリーンに映しながら、「死にたくて死んだ人は一人もおらん。父にもまだやりたことがいっぱいあった」と語った。多くの命と夢や希望を奪う戦争の非道さを訴えた。YAのメンバーは10歳連続。一行は原爆資料館の見学や碑巡りもした。

(桑島美帆)

被爆者の医師2人とジュニアライターたちが交流した座談会



被爆した医師2人と座談会

広島市医師会の市民公開講演会「忘れない原爆の恐ろしさを伝えようヒロシマの心」が、広島市西区の広島医師会館であります。被爆者の医師、檜脇千里さん(88)と原田義弘さん(82)の体験を聞きました。二人とも高校生による座談会がありましたが、千里さんは、東区牛田早稲田の自宅で被爆しました。当時14歳。逃げる途中で、ずりとむけた皮膚を手の先に垂らして歩く人をたくさん見たそうです。「牛田山から見た島の街の風景は忘れられない」と話しました。

(高2斎藤幸歩)

原田さんは、安佐南区の祖父母宅に疎開していました。目がくらむほどの強い光を受け、ききながつた」と振り返りました。座談会には、中国新聞ジュニアライターの佐藤西さん(高2)、柚木優里奈さん(高2)と一緒に参加しました。平和のために私たちができるることを尋ねると、檜脇さんは「与えられた境遇で、懸命に生き、原爆のことを多くの人に語り継いでほしい」と答えました。戦争を知るのを尊重して謙虚に生きてほしいと答えました。

2人の言葉には、重みがありました。

●親切丁寧な対応 ●電話無料査定(5分ほどで結果ができます)

●引取りは最短3日後から(全国対応) ●当日現金にてお支払い

※メーカー名・ペダル数・天板を開けた中の品番と製造番号を事前にご確認ください。※電子ピアノ等電子鍵盤楽器をお引き受けしておりません。

株式会社ジャパンピアノサービス

埼玉県所沢市くすのき台3-18-8 埼玉県公安委員会 431090008344

まずはお電話 FREE! 0120-191076

●朝9時～夜6時 年中無休 ●携帯からOK!

●大切に扱い、丁寧な査定と引取り

●安心の保証制度

●豊富な在庫

●丁寧な対応

●丁寧な査定

●丁寧な引取り

●丁寧な査定